

静岡文化芸術大 船戸教授とゼミ生



アンケートについて地域住民に説明する船戸教授＝浜松市北区引佐町

年度内、結果報告へ

ゼミでは2016年から、学生を中心に地区の棚田で米を栽培し、販売も行

静岡文化芸術大(浜松市中区)文化政策学部の船戸修一教授とゼミ生が、同市北区引佐町久留女木地区の全世帯を対象に、棚田に関する意識調査に乗り出した。地元の住民団体が農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に認定されている久留女木の棚田の保全に取り組んでいて、船戸教授は「今後の地域づくりを考える上で全住民の棚田への思いを明らかにしたい」と話す。

久留女木 棚田への意識は 全世帯調査 地域づくりを考える

つてきた。19年の棚田地域振興法の施行を受けて22年に「久留女木地域振興協議会」が発足。棚田を核とした中山間地の活性化の必要性が高まる中、耕作に関わるのが全58世帯のうち6世帯にとどまるという現状を知り、全世帯の意識を把握する調査を企画した。

れた常会に参加し、世帯主世帯主以外(15歳以上)の2種類のアンケートを配布して協力を呼びかけた。棚田について知っていることや過去に訪れた目的、地区に住み続けたいかなどを質問する。10月上旬ごろまで

に回収し、年度内の結果報告をを目指すという。船戸教授は「地権者ではない住民が棚田をどう考えているか知りたい。未来に明るい希望が持てるような調査になれば」と話した。(細江支局・大石真聖)